



さくら会 だより

*さくら会のマーク

重なりあう花びらは、人と人とが互いに尊重し、理解を深め合う利用者とさくら会とのより良い関係づくりを象徴しています。

第73号 2026年7月発行 社会福祉法人 さくら会

〒140-0013 品川区南大井5-19-1
☎(03)5753-3900(代)・FAX(03)5753-3955
ホームページ: <https://shinagawa-sakurakai.or.jp>

超強化型老健として新たな第一歩を

ケアセンター南大井

このたび、ケアセンター南大井は令和8年6月に「在宅強化型」から「超強化型介護老人保健施設」へ移行いたしました。

超強化型老健とは、5類型の一番上のランクで、充実したリハビリテーションや、手厚い医療ケアの提供、さらに在宅復帰のためのケアを高水準で実施している施設に認められる区分です。



多職種連携による
サービス担当者会議風景

当施設では、医師・看護師・介護士・リハビリ職員・管理栄養士・歯科衛生士・介護支援専門員など多職種が連携し、在宅復帰困難とされた方も、家族の協力のもと、一か月の在宅復帰を実現させるなど、「在宅復帰をあきらめない」という思いのもと支援を続けてまいりました。

その思いが、超強化型施設という形に繋がったものと考えております。

もちろん、施設の思いだけではありません。日頃より利用者・家族、地域の方々、関係機関の皆様の理解とご支援があつてのものとなり感謝申し上げます。

昨今、当施設では、重度の嚥下障害の方への支援や、見守りシステムを活用した安全対策にも力を入れております。



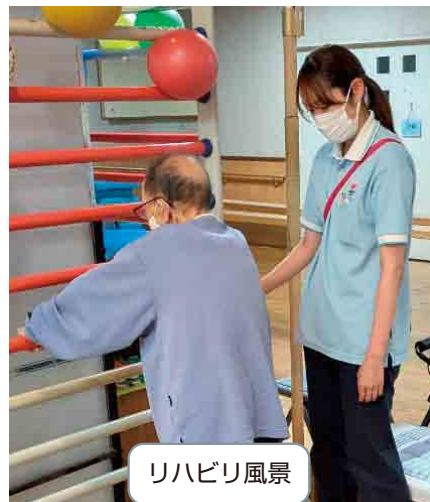
私たちも一生懸命ケアをしたい

ケーブルテレビ品川 取材風景

しながわEYE YouTube より引用

今後も社会福祉法人さくら会の理念のもと、「その人らしい生活」を支える施設であり続けられるよう、職員一同努めてまいります。

3月には、ケーブルテレビ品川より老健施設紹介の取材を受け、リハビリの様子や見守りカメラによるケア方法を取り上げていただきました。



リハビリ風景

部長・所長・施設長就任と新規採用の職員を紹介します

新任挨拶

在宅第二部長

西村 弘江



介護の仕事に携わり今年で30年目を迎えます。介護の仕事は、利用者おひとりおひとりが選択されて来た人生の続きに関わらせていただける、大変有難く幸せな仕事だと思っています。

介護の仕事に従事できることに感謝と誇りを持ち、利用者やその家族の方々のその人生が、「昨日よりちよっと幸せ」と感じていただけることを目標に、連携してくださる各サービス事業所、医療機関、品川区、社会福祉協議会など、皆様のお力をお借りして、そして、何より信頼するさくら会の仲間たちと共に、精一杯励んでまいります。

さくらハイツ南大井施設長

佐藤 勇二



令和8年4月1日から、さくらハイツ南大井の施設長に就任しました佐藤と申します。

社会福祉法人の勤務は初めてとなりますが、さくらハイツ南大井の皆様が、毎日が楽しくなるような生活環境になるよう、努めていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

南大井在宅介護支援センター所長

折原 現



令和8年4月から、南大井在宅介護支援センター所長に就任しました折原現と申します。

品川介護福祉専門学校を第一期卒業し、区内特別養護老人ホームで介護業務に従事。その後は、さくら会にて21年在宅部門中心に地域の方々の相談窓口として勤務してまいりました。

体の大きさを活かして、頼りがいある所長として事業運営してまいります。

新規採用職員

南大井第二在宅介護支援センター

鈴木 真由美



スズキマユミ、同姓同名が多い名前ですが、覚えやすい名前でもありますので、覚えていただけると幸いです。

これまで看護師、ケアマネ経験を活かし、ケアマネジメント、相談業務に努めたいと思います。よろしくお願いいたします。

品川区立月見橋在宅サービスセンター

米竹 麻衣



月見橋在宅サービスセンターにて介護福祉士として勤務しております。米竹(よねたけ)と申します。

利用者の皆様との繋がりを大切に、思いに寄り添った介護を心がけております。

趣味は、ランニング、筋トレ、読書です。よろしくお願いたします。

リハビリ室

小島 里玖



今年度4月よりリハビリ室に入職しました理学療法士の小島里玖(りく)と申します。まだまだ分からないことばかりですが、皆様のお役に立てるよう、精一杯努めてまいります。海釣りが趣味です。どうぞよろしくお願いいたします。

住宅の入居申込みは 随時受け付けています

品川区立大井林町高齢者住宅

品川区立大井林町高齢者住宅は、京浜急行鮫洲駅から徒歩5分、JR大井町駅から徒歩10分のところにあります。目の前には大井公園があり、日中は子供の元気な声が聞こえ、夜間はとても静かな環境です。

毎日24時間、職員が常駐し、生活支援サービスや緊急時などに対応しています。

建物の1階にある憩いの場大井林町では、入居者が自由に参加できる「体操」「飾り作り」「お食事会」などを行い、入居者も自主的に「書道」「囲碁」「麻雀」「UNO」などの活動を行っています。



飾り作りの様子



食事会

住戸は、単身者用・2人用があります。どちらも随時募集・見学を受け付けています。

申し込み資格はホームページをご覧ください。ご不明な点がありましたら、住宅担当へご連絡ください。

電話・03(5495)7080

(9時〜17時 土・日・祝も可)

笑顔あふれる 東大井林町こどもまつり

品川区立大井林町地域密着型多機能ホーム（大井林町倶楽部）

東大井林町会の恒例行事「こどもまつり」が5月10日（日）、爽やかな五月晴れの下で開催されました。今年は160名を超える参加者が訪れ、会場は大にぎわいとなりました。

会場となった品川区立大井林町複合施設では、ポップコーン配布やキーホルダー作り、折り紙ワークショップ、おもちゃすくい、プラレール広場など、子どもから大人まで楽しめる企画を実施しました。

また、太陽光発電の見学や品川区トイレトラック展示など、防災について学べる企画も行われ、楽しみながら地域防災について考える機会となりました。

特に今年は「エア遊具」が大人気で、元気いっぱいに遊ぶ子どもたちの姿に、利用者も自然と笑顔を見せていました。さらに、昨年に続き品川区認知症啓発キャラクターの「くるみちゃん」も登場し、会場を一層盛り上げました。



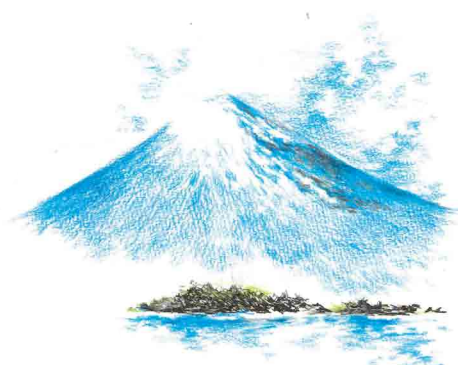
そして、今年の注目企画は、大井林町倶楽部で6月24日（水）から月1回オープン予定の「だかし屋」です。こどもまつり当日はプレオープンとして先行開催し、駄菓子無料配布を行いました。子どもたちは目を輝かせながらお気に入りの駄菓子を選び、その様子を見守る利用者や地域の皆様にもたくさん笑顔が広がっていました。

今後も地域に開かれた交流の場づくりに取り組み、多世代がつながる温かな居場所を目指してまいります。

ある利用者の日常

旅先の思い出の風景画を中心に、1日1枚描くことを日課とされています。繊細で優しい色使いが印象的です。

利用当初は、環境の変化に戸惑いも見られましたが、絵を描く時間を大切にされる中で、穏やかに施設の生活に馴染まれていきます。今回は、その中でもご本人お気に入りの風景画を紹介したいと思います。



ケアセンター南大井

いっしょに弾む、 笑顔のひと時をお届け！

西五反田事業部

当施設では、入居者・利用者の皆様はもちろん、家族や職員まで、関わる全ての人が明るく元気になるような取り組みに力を入れています。

今、大盛り上がりなのが「体験型イベント」です。



昨年スタートした『245 麻雀倶楽部』は、毎週1回、心地よい牌の音とともに笑い声が響く恒例の行事となりました。頭の体操をしながらの交流は、社会参加の一環としてだけではなく、絆を深める大切な時間となっています。

さらに今年度からは、待望の新作映画が始動！

夫婦音楽漫才の『三

ニツ』さんをゲスト

に迎え、複合施設全体を巻き込んだスペシャルイベントを開催して

います。音楽と笑いが融合したステージは、まさに元気の源。

これから、皆様の

毎日に「わくわく」と「活力」をプラスする

活動を広げてまいります。



あなたの優しさを 地域の支えに

非常勤職員募集

社会福祉法人さくら会では、非常勤（パート）職員を募集しています。高齢者の暮らしを支える、やりがいのあるお仕事です。

未経験の方やブランクのある方も、ぜひご相談ください。

まずは見学だけでもOKです。お気軽にお問い合わせください。

○募集職種

介護職および看護職（有資格者）

○勤務条件

時給 介護職 1,500円以上（手当含）

看護職 1,800円以上（手当含）

○勤務時間・勤務日数は相談して決められます。

ライフスタイルに合わせた働き方が可能です。

「週1日だけ働きたい」

「資格や経験を活かしたい」

「地域福祉に関わりたい」

そんな皆様のご応募をお待ちしています。

【お問い合わせ】

社会福祉法人さくら会

採用担当 原田・赤松まで

電話：03（5753）3900



連載No.32

専門職に聞く

南大井在宅介護支援センター

介護支援専門員 中澤 奈穂

Q1 仕事の内容

自宅で自分らしく暮らせるよう支える「介護サ―ビスの案内人」です。

直接の介護ではなく利用者と事業者をつなぐ架け橋として、お一人お一人に合ったサポートをコーディネートします。

Q2 専門職として心掛けていること

その方の人生や想いに寄り添い、専門職とのチームワークで自立を支え、家族とも心地よい関係を保ちながら、一緒に考えていく伴走者でありたいと考えています。

Q3 ご利用者、読者に向けてメッセージ

住み慣れた街で、自分らしい暮らしを。私たちは、ご家族や専門職と生活を共に作る一番身近な応援団です。



ひとりで抱え込まず、まずはお気軽にご相談ください。

次回10月号は南大井在宅サ―ビスセンターの看護師「伊東美也子」さんの登場です！

さくら会だよりの感想をお聞かせ下さい。

〒140-0013 品川区南大井5-19-1

社会福祉法人さくら会 編集委員会 宛

次回の発行予定は、令和8年10月です。